



いくたに

生谷邸（生谷家住宅主屋）

h03



[ハレとケのまち京都]

景 007 (H18) 歴 034 (H24)

西陣の一角、室町通と上御霊前通のカギ型の辻に位置する当家は、室町時代より当地に在ったと伝えられています。

室町時代には御家人であった生谷家は、所司代の命で賀茂川築堤を成し遂げ、その後「万や」を屋号とし、紫明通の市場で青物屋を営んでいました。市場が市内に移ったのを契機に、当家で乾物屋を営み、尾形光琳屋敷も在ったというこの辺り一帯を所有していました。

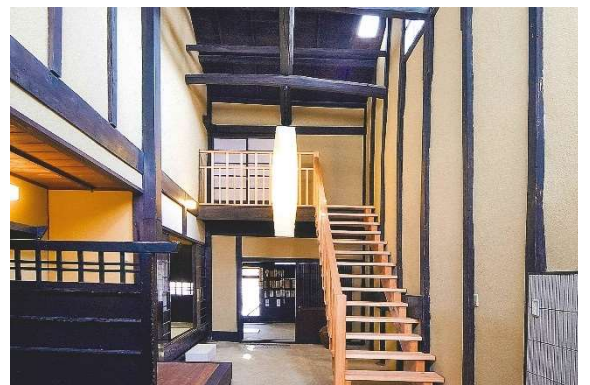
乾物屋廃業後は住居とし、明治10年頃に建て替えられたと推測される主屋は、瓦葺切妻平入のツシニ階建、1階は出格子と平格子のほか大戸で構成され、前面には駒寄せがあり、2階の虫籠窓などとともによく維持されています。

主屋の北側3間は落ち棟になっており、むくりのついた屋根が設けられ、主屋の庇とともに通り庇を形成しています。

内部は、通り庭に沿って居室を2列に5室並べる平面形式で、大戸口から裏手へと土間が通り抜けるハシリには、昭和50年頃まで使用していた黒煉瓦積みのおくどさんが残され、ハシリの奥は水回りを設けた角出しとなっています。



1階座敷



ハシリ



〒602-0001 京都市上京区室町通鞍馬口下る2丁目竹園町15
※個人宅のため、通常非公開です。